

令和7年度 日本獣医師会獣医学術賞の受賞者及び受賞研究業績

令和7年度の日本獣医師会獣医学術賞について、「獣医学術奨励賞」は日本獣医師会雑誌の令和5年8月号（第76巻第8号）から令和7年7月号（第78巻第7号）に掲載された原著・短報を対象に、「獣医学術学会賞」は第43回獣医学術学会年次大会（令和7年度）で講演のあった地区学会長賞受賞講演の中から、「獣医学術功労賞」は永年の獣医学術研究の功労者の中から、獣医学術功労者選考委員会で厳正に審査され、日本獣医師会獣医学術賞表彰等規程に基づき、獣医学術の振興・普及及び調査研究に関し著しく貢献した業績を選考し、表彰した。また、後日、本賞（賞状）及び協賛会社（日本全薬工業(株)、共立製薬(株)、日本ハム(株)）からの副賞（研究奨励金）が受賞者に授与された。

令和7年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞業績

【産業動物部門】

〔獣医学術奨励賞〕

成牛のヨーネ菌感染／

再感染における感染初期応答の解析

泉 一宏（北海道十勝家畜保健衛生所），他
 〈選考理由〉 本論文は、ヨーネ菌の子牛と成牛における初感染時と成牛の再感染時における感染初期の排菌と免疫応答の推移を解析した感染実験の結果を報告したものである。本研究では、ヨーネ菌は月齢に関係なく感染するが感染初期の排菌や臓器での菌増殖と病変形成は月齢による抵抗性の違いがあることを示した。非常に困難なヨーネ菌の感染実験を長期間にわたって行い、感染初期における病態の解析を行った点は高く評価され、ヨーネ病の効果的な対策を講じるために有用な基礎研究であることから、獣医学術奨励賞受賞研究業績として推薦する。

〔獣医学術学会賞〕

ESBLを獲得した *Salmonella Montevideo* の
 遺伝子学的解析

山崎健太（鳥取県倉吉家畜保健衛生所），他
 〈選考理由〉 ESBL（基質特異性拡張型βラクタマーゼ）は抗菌剤を分解して無効化する酵素で、その耐性遺伝子は菌同士で交換するため異なる菌種間で広がることが懸念されている。本研究は、牛サルモネラ症発生農場で投薬治療後の子牛から多剤耐性 *Salmonella Montevideo* (SM) が分離され、その由来特定のために細菌学的検索と遺伝子学的解析を実施した結果、多剤耐性 SM と大腸菌が同一の ESBL 産生菌であり、SM と

大腸菌の双方向でプラスミドの伝達が確認されることを示したものである。AMRが大きな問題となる中、注意喚起を提示するものであることから、獣医学術学会賞受賞研究業績として推薦する。

〔獣医学術功労賞〕

牛遺伝性疾患の分子病態解明と発症予防

稲葉 睦（北海道大学名誉教授）

〈選考理由〉 稲葉 睦氏は、牛遺伝性疾患の病因病態と発症制御に関する研究に長年にわたり携わり、特に国内外の家畜遺伝性疾患研究の先駆的業績である黒毛和種牛のバンド3欠損症（遺伝性球状赤血球症）に関する研究は、家畜遺伝性疾患発症予防のための遺伝子診断と生産制御の普及に大きな貢献を果たしている。また、獣医内科学教科書や各種学術誌での執筆・監修を通して家畜遺伝性疾患の知識を獣医師と獣医学生に広めるなど、獣医学術の発展と後進の指導育成に尽力している。さらに、同氏は、本会と本学会の運営・学術活動に長年にわたり多大な貢献をされたことから、獣医学術功労賞を授与されるに相応しいと判断した。

【小動物部門】

〔獣医学術奨励賞〕

デグーの口腔内処置を可能にする

アルファキサロンを用いた皮下注射麻酔法

坂本匠威（サニー動物・長野県），他

〈選考理由〉 本論文は、近年、飼育動物として人気が高まっているデグーの口腔内処置を可能にする注射麻酔法を提案する研究報告である。本研究では、歯科疾患の多いデグーの口腔内検査・処置を可能にするアル



令和7年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞者及び協賛各社

左から、泉 一宏、山崎健太、稲葉 陸、坂本匠威、藤岡崇伯（代理）、藏内勇夫（(公社)日本獣医師会 会長）、福井寿一（日本全薬工業(株) 代表取締役社長）、寺田武史（共立製薬(株) CA 営業本部兼 PA 営業本部長）、長谷川隆則（日本ハム(株)中央研究所 所長）、小山秀一、稲田和也、佐賀由美子、上野俊治（敬称略）

ファキサロンを用いた皮下注射麻酔法を提案した。デグーの注射麻酔法を丁寧に検討し、口腔内処置としての有用性を確認した点は高く評価できることから、獣医学術奨励賞受賞研究業績として推薦する。

〔獣医学術学会賞〕

無輸血下に人工心肺を用いて外科的閉鎖を実施した猫の心室中隔欠損症の1例

藤岡崇伯（ゆめさき動物病院）、他

〈選考理由〉 本研究は、人工心肺を用いた猫の心室中隔欠損症の外科的閉鎖において、輸血が必要となることが多い中、術中の限外濾過法を併用した人工心肺管理により、輸血を行わずに外科的閉鎖を実施し、良好な経過を得た1症例を報告したものである。単一症例での報告ではあるが、猫の人工心肺時の輸血の問題を可決する革新的な研究であり、今後、症例を蓄積して本手法の安全性と有効性を一般化すれば、猫の先天性心疾患治療における有効な選択肢となり得ることから、獣医学術学会賞受賞研究業績として推薦する。

〔獣医学術功労賞〕

小動物臨床における超音波画像検査法の確立

小山秀一（日本獣医生命科学大学 名誉教授）

〈選考理由〉 小山秀一氏は長年にわたり臨床獣医学領域

の幅広い研究に携わり、特に超音波画像診断にいち早く着手し、現在の小動物医獣医療で一般的な検査法となった心エコー図検査法の基盤を築き上げた。また、大学教員として研究のみならず獣医学教育及びその実践の発展に貢献し、後進に臨床研究の基盤及び筋道を提示した。同氏は、本会と本学会の運営・学術活動に長年にわたり多大な貢献をされたことから、獣医学術功労賞を授与されるに相応しいと判断した。

【公衆衛生部門】

〔獣医学術奨励賞〕

道内産めん羊における志賀毒素産生性大腸菌及びサルモネラ属菌の保有状況

稲田和也（北海道オホーツク総合振興局保健）、他
（環境部北見地域保健室食肉検査課）

〈選考理由〉 本論文は、北海道で飼育された、めん羊の糞便中の志賀毒素産生性大腸菌（STEC）とサルモネラ属菌の保有状況についての調査の結果を報告したものである。本研究では、と畜場に搬入されるめん羊が保有する STEC、サルモネラ属菌の実態を明らかにするとともに、めん羊の糞便を介したと畜場や枝肉の汚染の可能性について指摘している。北海道での羊肉消費、北海道産羊肉の国内流通の大きさから公衆衛生上インパクトのある重要なデータであり、近年食用として多用される羊肉の衛生的な取扱を喚起する上で貴重

な論文であることから、獣医学術奨励賞受賞研究業績として推薦する。

〔獣医学術学会賞〕

富山県の伴侶動物における 重症熱性血小板減少症候群ウイルス感染状況調査

佐賀由美子（富山県衛生研究所ウイルス部）、他
〈選考理由〉 本研究は、富山県における犬・猫の SFTS ウイルス感染状況を明らかにするため、抗体保有状況及び疑似症例の SFTSV 遺伝子保有状況を調査するとともに、SFTS、つつが虫病及び日本紅斑熱を同時に検出するリアルタイム PCR 法を開発して高感度に各病原体遺伝子の検出を可能とした点で高く評価される。犬・猫から SFTSV 特異的 IgG 抗体は検出されなかったが、犬では3週間にわたり尿中の SFTSV 遺伝子動態を経過観察して注意喚起するなど、地域における SFTS をはじめとする感染症対策への貢献は大きく、今後の公衆衛生への貢献も期待されることから、

獣医学術学会賞受賞研究業績として推薦する。

〔獣医学術功労賞〕

公衆衛生上問題となる有害物質の 生体内毒性発現機構の解析

上野俊治（北里大学・名誉教授）

〈選考理由〉 上野俊治氏は、ヒトの生活上暴露される化学物質による健康危害をテーマとして研究に取り組み、有害化学物質の分布や生体内で代謝後に初めて発現する毒性機序を評価してきた。研究の成果は、数多くの国内外の科学誌に公表されると共に、多くの国民に向けて公開講座等で情報発信するなど、わが国の獣医公衆衛生学の発展に貢献した。また、同氏は、日本獣医師会学会幹事や公衆衛生学会東北地区学会長を務め、獣医師会東北地区学会員、特に公衆衛生獣医師の学術面への進出意欲を後押しするなど、本会と本学会の運営・学術活動に大きく貢献したことから、獣医学術功労賞を授与されるに相応しいと判断した。